

「研究と創造の精神」と「モノづくり」 赤れんが便利

Information of Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology

特集 「百年俯瞰」トヨタグループ発祥 100年

Vol. 80



トヨペット・クラウンの出荷式(1955年) 写真提供:トヨタ自動車



トヨタ産業技術記念館

百年俯瞰

トヨタグループが織り成す絆物語

→→ 第3回 ←←

《戦後のグループの変遷（1945～1959）》

戦後、繊維関連事業主体のグループ会社は、いち早く復興への道を歩み出し、自動車関連も徐々に生産体制を整え、分離独立による新会社の設立など事業の再興が進められました。やがて、乗用車の生産制限も解除され、グループ各社の総力を結集して、純国産技術によるクラウンを完成させます。

グループの方向性確定・新規事業の模索

終戦間もない1945（昭和20）年8月27日、トヨタグループの持株会社である豊田産業（株）が開催した取締役会において、トヨタグループ全体の今後の方向性を決めます。ここに出席した顔ぶれは、豊田産業（株）の取締役であるとともにトヨタグループ各社の社長や監査役といった要職を兼務していることから、出席者全員がグループにおける経営陣の中核といえる人ばかり。そこで出した結論は「豊田業団（トヨタグループのこと）は、自動車・紡織機・紡績を3本の柱とする」というものでした。

このうち、紡織機・紡績は問題なく再開できる目処も立っていましたが、自動車はその生産が禁止される場合を想定し、同年10月に拳母工場の近くにトヨタ研究所を設置し、日常生活に欠か

せない衣食住に関わる事業の調査研究を始めました。その中には、合成甘味料の試作、薬草栽培、ドジョウの人工養殖などがあり、また当時の住宅難に対処するため、工業化工法によるコンクリート建築を住宅建設に応用したプレコン（プレキャストコンクリート）住宅を開発し、これが今のトヨタホーム（株）へと続く端緒となりました。

繊維関連事業の復興から自動車関連事業の再興へ

グループ各社の復興は、まずは繊維関連事業から始まりました。1945（昭和20）年12月8日に民需転換許可を受け、（株）豊田自動織機製作所（以下、（株）豊田自動織機）がただちに紡織機製造を再開し、その後も戦後日本で最初に輸出を許可された機械が

世相・情勢	トヨタグループの対応
1945	1945年8月 終戦
1945年9月	「豊田業団」の3事業を自動車・紡織機・紡績に
1945年9月	「東新航空機」↓
1945年9月	「新川産業」に名称変更
1945年10月	トヨタ研究所設置
1945年11月	「豊田製鋼」↓
1945年11月	「愛知製鋼」に名称変更
1945年11月	「GHQ」持株会社「財団」解体「着手」
1945年11月	「制限会社」公布
1945年11月	「日本自動車配給会社」の解散
1946	1945年12月
1945年12月	豊田自動織機が民需転換し織機8000台の輸出許可
1945年12月	「トヨタ車体工業」↓
1945年12月	「豊田工業」↓
1945年12月	「刈谷工機」に名称変更
1945年12月	「東海飛行機」↓
1945年12月	「愛知工業」に名称変更
1947	1946年5月
1946年5月	「自動車生産の現状とトヨタ自動車の進路」演説
1946年5月	「トヨタ自動車販売店組合」設立
1946年10月	「戦時補償特別措置法」企業再建整備法「施行」

織機800台だったことから受注量を急速に伸ばします。また、刈谷工機(株)(豊田工機(株)から改称、光洋精工(株)と合併し、現・(株)ジェイテクト)は、(株)豊田自動織機から織維機械製造そめんきを受注し、1947(昭和22)年12月から梳綿機の生産を開始。後に日本における梳綿機のトップメーカーへと育っていきます。

また、航空機生産が禁止された愛知工業(株)(東海飛行機(株)より改称、現・アイシン精機(株))は、喜一郎の命令により、家庭用ミシンの試作に着手。約1年間の試行錯誤の末、1946(昭和21)年10月に1号機を完成し、それまで自動車にしか使用されていなかった「トヨタ」の商標を使用した「トヨタミン」を発売しました。

また、豊田産業(株)は、財閥解体令の一環として、トヨタグループの持株会社に指定されたことで、1947(昭和22)年9月26日、解体。商事部門のみ切り離し、1948(昭和23)年7月1日、日新通商(株)(現・豊田通商(株))を設立しています。

一方、自動車関連事業を主とするグループ会社も、生産体制を整えていきます。1945(昭和20)年9月25日にはGHQによりトラックの製造が許可されましたが、乗用車の製造はまだ許可されません。しかし、研究開発については制限されなかったので、1945(昭和20)年10月から小型車用エンジンの設計を開始し、1946(昭和21)年11月には、S型エンジンとして試作第1号を完成させ、まずはSB型トラックに搭載。その後、1947(昭和22)年

6月、GHQが1500cc以下の乗用車の生産を年間300台に限り許可したのを受け、同年10月にトヨタ自動車工業(株)(以下、トヨタ自工(株))



SA型乗用車

が製作した乗用車用シャシーに荒川钣金工業製作のボディを架装したSA型乗用車を発売。それに先駆け、同年8月には愛称を公募し、「トヨペット」と決定しました。

それとともに、1946(昭和21)年から販売組織の再建にも取り組み、その第一歩として同年5月18日に全国の地方自動車配給代表者を挙母工場に招き、豊田喜一郎社長が、「自動車工業の現状とトヨタ自動車の進路」と題する講演を行い、トヨタ自工(株)再建に対する決意を表明しました。その結果、同年11月16日には、トヨタ自動車販売店組合が会員会社46社によって設立されました。

また、トヨタ自工も戦時補償が打ち切られたため、1946(昭和21)年10月に公布された「企業再建整備法」に基づいて、トヨタ自工(株)も再建整備計画を策定することとなり、その結果、1949(昭和24)年12月16日には電装部門を分離独立させて日本電装ほうろく(株)(現・(株)デンソー)、中川工場の珪瑯鉄器製造部門を分離独立させて愛知珪瑯(株)を設立。1950(昭和25)年5月15日には紡織部が所在する刈谷南工場を分離独立させて民成紡績(株)(現・トヨタ紡織(株))を設立することとなりました。

関東自動車工業(株)がグループ入り

1949(昭和24)年10月、GHQによる乗用車の生産制限が全面解除されます。そこで、同年11月からトヨタ自工(株)はSB型トラック・シャシーを利用したタクシー向けSD型自動車の生産を関東電気自動車製造(株)(1950(昭和25)年5月に関東自動車工業(株)(以下、関東自工(株))に改称)で開始します。この技術

47年6月 乗用車生産を制限付きで許可

47年12月 過度経済力集中排除法公布

49年3月 トヨタライン発表
49年4月 1ドル360円の単一為替レート決定

49年10月 GHQ乗用車生産制限を全面解除

1948

1949

47年4月 「SB型トラック」発売

47年9月 持株会社に指定され「豊田産業」を解散

47年10月 「SA型乗用車」発売

48年7月 「日新通商」設立

49年6月 「名古屋ゴム」設立

49年11月 再建整備計画認可

49年12月 24行協調融資
49年12月 「日本電装」
「愛知珪瑯」を分社化

を高く評価したトヨタは1954(昭和29)年に資本参加を決定。関東自工(株)はトヨタグループ入りを果たし、その後、トヨペット・スーパー、トヨペット・マスター、トヨペット・コロナの設計・製造をはじめ、グループの乗用車開発に大きく貢献していくこととなりました。

なお、2012(平成24)年7月1日、関東自工(株)はセントラル自動車(株)とトヨタ自動車東北(株)とともに、トヨタ自動車東日本(株)となります。

トヨタ自販(株)の設立

当時の日本経済は、1949(昭和24)年に導入された経済安定化政策「ドッジライン」による金融引き締めの影響で、深刻な資金不足に陥って失業や倒産が相次ぎ、不況が深刻化します。その影響はトヨタ自工(株)にも及び、月賦販売の車両の代金回収が思うに任せず、賃金の支払いが遅れる状況になるほどにトヨタ自工(株)の経営を圧迫し、その結果、同年12月末には2億円の資金不足に陥ります。

1950(昭和25)年正月早々、日本銀行から再建策として「販売資金と製造資金を峻別できる体制の確立」が基本方針として示され、それに基づき1950(昭和25)年4月3日、トヨタ自工(株)から販売部門を分離独立させてトヨタ自動車販売(株)(以下、トヨタ自販(株)、現・トヨタ自動車(株))を設立します。トヨタ自工(株)が技術、生産、品質保証の分野を、トヨタ自販(株)が販売の分野を担当していく体制となりました。

労働組合の結成と労働争議

1945(昭和20)年以降、グループ各社で労働組合が相次いで結成されると、戦後の不況を受け労働争議が湧き起こります。そこでは、人員整理や賃金カットなど従業員に大きな犠牲を強いただけでなく、経営陣にも経営再建という大きな課題を残しました。特に、トヨタ自工(株)では、1950(昭和25)年6月5日に社長の豊田喜一郎が労働争議の責任を取って辞任します。

ドッジラインによる不況と労働争議による混乱により、トヨタ自工(株)も存亡の危機にさらされましたが、この苦境を救ったのが、同年6月に勃発した朝鮮戦争による米国からのトラックの大量受注です。トヨタ自工(株)の生産台数は急増し、刈谷車体(株)(現・トヨタ車体(株))、愛知製鋼(株)、日本電装(株)などのグループ内の自動車関連事業会社も業績を好転させていきました。



トヨタ自工(株)の本事務所前での職場大会 / 1950(昭和25)年

反面、それまで好調だった繊維関連事業は減速。そこで、(株)豊田自動織機では、1951(昭和26)年からトヨタ自工(株)との連携を深め、業績が好調となったトヨタ自工(株)から1952

世相・情勢

50年6月 朝鮮戦争勃発

1950

50年7月 朝鮮へトラック輸出
50年6月 喜一郎辞任
50年5月 「民成紡績」を分社化
50年4月 「トヨタ自販」設立
50年4月～6月 トヨタ自工の労働争議

51年6月 三菱・カイザーと技術提携

52年6月 乗用車関係提携及び組立契約に関する取扱方針

52年7月 日野ルノーと技術提携

52年12月 日産・オーステンと技術提携

53年2月 いすゞ、ルーツと技術提携

1955

55年5月 通産省による「国民車育成要綱案」

55年1月 「クラウン」発売

56年7月 「日新通商」↓「豊田通商」に名称変更

59年8月 元町工場稼働

}}

52年7月 参議院運輸委員会にて石田社長が出席
「近い将来には必ず国産乗用車を完成させる」
52年3月・6月 喜一郎・利三郎逝去

52年12月 「刈谷工機」↓「豊田工機」に名称変更

53年6月 「刈谷車体」↓「トヨタ車体」に名称変更

53年9月 「新川産業」↓「新川工業」に名称変更

53年8月 「東和不動産」設立

54年6月 「関東自工」に資本参加

トヨタグループの対応

(昭和27)年末、S型エンジンの生産を引き受けました。愛知工業(株)では、ミシン製造に加え、自動車部品製造を強化。刈谷工機(株)では、自動車部品の加工事業に進出するなど、グループの軸足を繊維から自動車へと移行する動きが始まります。

このように、トヨタグループが自動車事業を中核にまとまりつつある1952(昭和27)年3月27日、豊田喜一郎が、そのわずか2か月余り後の6月3日には豊田利三郎が相次いで亡くなりました。自動車事業を興すのは不可能ともいわれた時代に果敢に挑戦し邁進した喜一郎。当初は猛反対しつつも良き理解者となり、最期には「何が何でも乗用車をやれ」と発破をかけたといわれる利三郎。この2人が亡くなったことで、グループは新たな時代に入りました。

名古屋ゴム(株)と新川工業(株)の設立

1949(昭和24)年6月15日、すでに空襲によって全焼し、生産ができなくなっていた国華工業(株)愛知工場を自動車部品メーカーとして分離独立させて、名古屋ゴム(株)(現・豊田合成(株))を設立します。また、1953(昭和28)年9月30日には新川工業(株)(愛知工業(株)と合併し、現・アイシン精機(株))を設立しました。新川工業(株)は、戦時中に設立された東新航空機(株)を前身としますが、この会社は東海飛行機(株)の協力工場として設立されたものの、ほとんど企業活動ができなまま終戦を迎え、その後、航空機の製造が禁止されたため、トヨタ自工(株)から受注したクラッチ、タイミングギヤ、ドアロックなど自動車部品の製造を開始しました。戦後の混乱期を経て、トヨタグループに新たな会社が変わっていきます。

東和不動産(株)の設立

1955(昭和30)年11月に豊田会館を再建し、豊田ビルが完成しますが、この建設を手がけたのが東和不動産(株)で、1953(昭和28)年8月、朝鮮戦争特需により、産業が急速に復興したことで貸事務所の需要も高まってきたため、トヨタ自工(株)、(株)豊田自動織機、日新通商(株)の3社共同出資により設立されました。東和不動産(株)は、製造業を中核としているトヨタグループの中で「貸ビル事業」という希有な業態けうですが、2002(平成14)

年12月に名古屋駅前のホテル跡地にセンチュリー豊田ビルを完成させます。さらに、2007(平成19)年3月には東和不動産(株)、毎日新聞社、トヨタ自動車(株)との3社共同開発により豊田ビルがミッドランドスクエアに生まれ変わることとなります。

純国産技術による乗用車開発・生産へ

1955(昭和30)年1月、トヨタ自工(株)はトヨペット・クラウンを発売します。1950年頃になると、経済の回復とともにタクシー用乗用車の需要が増大し、外国製乗用車の輸入自由化に対する要望が強まります。国内メーカーは乗用車の生産制限が解除されたばかりで、急いで乗用車を開発する必要が出てきたことから、外国メーカーとの技術提携が相次いで行われました。そんな中、トヨタ自工(株)では戦前から乗用車の研究を続けてきたこともあり、佐吉、喜一郎以来の自助努力による研究と創造の信念から純国産技術による開発をめざします。1952(昭和27)年3月に急逝した喜一郎の指示に基づいて、同年1月から本格的な乗用車の開発を進めていました。車名も喜一郎発案の「クラウン」と決まっていた。それまでの国産乗用車はトラックのシャシーにボディメーカーがボディを架装したものでしたが、このクラウンは、シャシーを乗用車専用設計したもので、また、ボディも自社で製造・架装し、量産化による製造原価の引き下げを図るために本格的なプレス加工を採用するとともに、グループ各社の技術力を結集して生産されました。

その後の旺盛な自動車需要に対応するため、1959(昭和34)年8月8日には、日本初の乗用車専門工場としてトヨタ自工(株)元町工場が完成、同年12月の生産台数は1万453台となり、月産1万台が実現しました。

(第4回につづく)

トヨペット・クラウン、マスターの出荷式 / 1955(昭和30)年1月



トヨタコレクション企画展
TOYOTA COLLECTION

アナログサウンドの原点がここに!

100年前のオーディオ

～蓄音機が変えた音楽の愉しみ～

2018 9.22 sat ~ 11.4 sun

特別展示室にて開催

館の入場券(常設展)でご覧いただけます
協力:大阪芸術大学



精工舎丸胴蓄音機



マルチフォン



錫箔円筒式蓄音機



紙腔琴

もともとは口述筆記のための道具であった蓄音機が進化を重ね、20世紀初めには音楽鑑賞の道具になっていきました。
そのしくみや歴史とともに、今とは異なるメディアによる音楽の楽しみ方をご紹介します。

無料 蓄音機による名曲コンサート

名機「クレデンザ」によるクラシックあるいはジャズの名曲演奏をお楽しみください。

下記日程で14時から1時間程度開催します。

【クラシックの日】

9月22日(土)

9月24日(月・祝)

9月29日(土)

10月8日(月・祝)

10月14日(日)

11月3日(土・祝)

11月4日(日)

【ジャズの日】

一流ジャズミュージシャンとのコラボレーションをお楽しみに!

10月6日(土) : 赤崎 真由美さん コラボ

10月20日(土) : 森 久子さん コラボ

10月28日(日) : 加藤 大智さん コラボ

ビクター ピクトローラ クレデンザ(初期型)
【アメリカ製】(1925年)大阪芸術大学所蔵

※プログラムの詳細は、ホームページをご覧ください。



10/6 赤崎 真由美さん
(土) ボーカル
14:00~



10/20 森 久子さん
(土) ボーカル
14:00~



10/28 加藤 大智さん
(日) サックス、クラリネット
14:00~



エジソン トライアンフ
モデルE



ニッポン ディクタホン



クトウ蓄音機



HMV No.460 ルミエール



ニッポノホン蓄音機



HMVリエントラント
モデル194

「トヨタコレクション」は、日本のモノづくりの源流ともいえる、主に江戸時代中期～明治時代初期の様々な分野（「からくり」、「測量・天文」、「銃・大砲」、「医療」、「絵画・書画」、「工芸」、「生活」等）にわたる貴重な科学技術資料です。今回はこれらの資料の中から、音を記録・再生する装置の原点である蓄音機を中心に、そのしくみや歴史とともに、今とは異なるアナログメディアによる音楽の楽しみ方をご紹介します。

〈静岡県湖西市観光協会より〉

湖西フォトコンテスト2018 佐吉フォト部門

佐吉生誕の地、静岡県湖西市では、季節ごとに湖西市の魅力を伝える写真を募集しています。今年は開館30周年を迎える豊田佐吉記念館の特別賞も設けました。たくさんのご応募をお待ちしています！

応募締切 「秋の写真」 2018年 12月27日(木) ※当日消印有効

佐吉フォト部門

豊田佐吉記念館および佐吉ゆかりの地をテーマにした写真作品 ※湖西市内の撮影に限る

〈賞〉 佐吉記念館賞／「秋の写真」1点 (賞金1万円+佐吉ゆかりの品)

応募
方法

カラープリントA4または四つ切(ワイドも可)の作品裏面に応募票を張り付け、応募先まで郵送または持参

※応募要項・応募票は下記ホームページよりダウンロードください
<http://kosaicity.com/foto2018.html>



湖西フォトコンテスト2011入賞作品「春の豊田佐吉生家」

Instagram icon **インスタ写真也大募集!**

#佐吉記念館フォトコンのハッシュタグを付けて投稿してください♪
2018年を通じて、優秀な作品を投稿してくれた方の中から4名に、佐吉グッズをプレゼントします。

問合せ・応募先／湖西市観光協会 事務局(湖西市役所 観光交流課内)

〒431-0492 静岡県湖西市吉美3268 [TEL] 053-576-1230 [e-mail] kankou@city.kosai.lg.jp

2018年 6月9日(土)・10日(日)

開館記念特別イベント「ノリノリウィークエンド」

ご家族揃ってお楽しみいただける特別イベントを開催。

恒例のトヨタAA型乗用車・G1型トラックの走行披露、初代クラウン・カローラ・セリカと同乗試乗会は初日は天候に恵まれましたが、2日目は午後から雨天となり、代わりに写真撮影会を行いました。

「段ボールクラフトでAA型乗用車をつくろう」「記念カードをつくろう」など新たなプログラムも加わり、2日間にわたり、大勢の方々に賑わいました。



2018年 7月18日(水)

トヨタ創業期試作工場 ～クルマづくり出発の地～ 一般公開

7月18日よりトヨタ創業期試作工場の一般公開が始まり、初日は121名のお客様に見学いただきました。

見学の申し込みは下記方法で

ホームページ ▶ <https://k.tcmit.org/>
申し込みフォームに必要事項を入力の上、送信ください。



FAX ▶ 0566-29-4152
ホームページから申込用紙をダウンロードし、
必要事項を記入の上、送付ください。

問い合わせ先 トヨタ創業期試作工場 受入グループ

☎ 0566-29-4151 【電話受付時間】 開館日の9時～17時

✉ k.tcmit.ukeire@he.aichi-steel.co.jp



2018年 7月22日(日)

第6回 さんぎ大学 講話会開催

愛知教育大学のオリバーマイヤー教授には「ドイツ・ルール工業地帯～産業遺産と地域活性化～」と題してお話いただき、当館の神原は7月18日より一般公開となった「トヨタ創業期試作工場～クルマづくり出発の地～」について紹介しました。



2018年 8月18日(土)・19日(日)

「夏休み 発見☆体験ミュージアム」

小中学生を対象とした夏の恒例イベント「夏休み 発見☆体験ミュージアム」を2日間にわたり大ホールで開催しました。

モーターの振動で走る「ホバークラフト型走行車」、歯車がつながって動く「ペンスタンド」、ガラ紡を使い粹織りで作る「カラフルコースター」の3プログラムを体験いただきました。

会場は連日たくさんの親子連れで大賑わい。子ども達は根気よく取り組み、時には親子で協力して完成させると達成感いっぱい!笑顔が溢れる2日間となりました。



2018年 8月25日(土)・26日(日)

図書室イベント「絵本をつくろう!」

図書室でも夏休みの2日間、イベントを開催しました。

参加者は雑誌を切り抜いたり、館内の実演で織った布をはったりして、世界で1冊だけのオリジナル絵本をつくりました。連日図書室はたくさんの参加者で賑わって、楽しいイベントとなりました。



2018年 6月12日(火)、7月24日(火)

旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」で好評価

世界最大級の旅行口コミサイトのトリップアドバイザー「旅好きが選ぶ!工場見学&社会科見学ランキング2018」で、4年連続日本全国第1位を、合わせて「外国人に人気の日本の観光スポット トップ30」でも全国第23位と過去最高順位となりました。特に、スタッフによる実演と丁寧な説明について来館者から好評をいただいています。

〈工場見学&社会科見学〉

1位	トヨタ産業技術記念館
2位	竹中大工道具館
3位	京都鉄道博物館
4位	麒麟ビール 横浜工場
5位	リニア・鉄道館

〈外国人に人気の日本の観光スポット トップ30〉

1位	伏見稲荷大社
2位	広島平和記念資料館
3位	宮島(厳島神社)
⋮	
23位	トヨタ産業技術記念館



ミュージアムカフェがリニューアルオープン!

2004年のオープン以来、初の大幅なリニューアルです。おもてなし向上に少しでもつながれば、との思いから客席数の増加、提供・返却カウンターの使いやすさの向上などを図りました。ソフトクリームなどメニューも充実させた新しいカフェで、皆様のご来店をお待ちしております。



館内隠れスポット紹介

vol.3

図書室は南ロータリーを見おろす2階の無料エリアにあります。

図書室

館内の見学と合わせ気軽にお立ち寄りください。どなた様も閲覧のみのご利用となります。皆様のいろいろな「？」にお答えするレファレンスサービスは随時承ります。



※館外貸出、複写サービスには対応しておりませんので、ご了承ください。

SPOT 1 蔵書



館内の展示機械や実演を補完する技術・産業・モノづくりなどの資料(書籍・雑誌・AV資料)を中心に7万冊ほど収集しています。特にトヨタグループをはじめとする製造業の社史が充実しています。閉架書庫の資料をご覧になりたい場合は、スタッフまでお申しつけください。



図書室担当 藤井 里江

SPOT 2 イベント

図書室では、さまざまなイベントを開催しています。



おりがみをおろう! [毎月第2・4土曜日]



本にひとこと! [常時開催]

おすすめ本から、あなたの好きな本を選んで投票してみませんか? ペーパークラフトがもらえます。

江戸時代から続く伝統的な折り方を習って、1枚の和紙から連なった2羽の鶴を完成させましょう!



連鶴をおろう! [次回開催日11/24(土)]

SPOT 3 こどもライブラリー



テクノランドには、絵本を声に出して読むことができる幼児向けの「こどもライブラリー」を併設しています。小学生向けには、発明家の伝記・工作・自由研究を中心としたモノづくりの世界の入口となる書籍を2階図書室「児童書コーナー」に3千冊ほど揃えています。



自動車工業界も、昨年の外車進出問題がさらに具体化して、外車の国内組立からさらに国産化へと発展し、ここに外車陣営に走るものと、国産車陣営に踏み止まるものとの二つにはっきりと分かれてきた。当社は創業以来の方針である国産車確立の道を選び、あえてイバラの道をきりひらいていく決心であるが、本年は、改めて国産車の真価が見直される時になると思う。

(中略)

とにかく、国産車の確立は、生やさしいことではないが、これはわたくし共が一度は必ず出会う試練で、この試練に打ち勝ってこそ初めて明るい将来が展開されてくると思う。……

従ってこの難局を深く認識して、全従業員がお互いに和親協力して国産自動車工業の確立に邁進してもらいたいと心から願うものである。

解説 どんな優れた技術であっても、苦勞を重ねて自ら開発したものでなければ、それを改良してより良いものに上げていくことができない、という前年3月に急逝した豊田喜一郎の考え方を継承する決意がうかがえる年頭所感です。



ショッピングワゴンの工夫

公式メモリーブック

記念館の建物をイメージしたレンガ調の布を用いた台に、平積みでボリューム感を出し陳列しております。展示場から退出されるお客様に、最初にお目に触れていただけるよう、季節を感じられる大きなパナースタンドでご紹介中。多言語版発売に合わせ、海外からのお客様向けに外国語表記も行ってあります。

オリジナルバッグ

「当館動態展示織機の実演により出来上がった布を使用」というオリジナル性を強調するため、写真を用いて多言語で紹介しております。アイテムは全部で10種類。そのすべてにサンプルをご用意させていただき、手触りや使いやすさを実感いただけるような陳列となっています。可愛らしくデコレーションした作品もご紹介し、お客様自身が作り上げる楽しさも同時にご提案しております。



館内のこだわり vol.3

テーマ 清掃



清掃担当
後藤 万里子



心がけていることは、常に隅々まで気を配り、清潔に保ち、綺麗に使っていただけるよう、日々業務に取り組むということです。というのも、清潔感は施設全体のお客様の印象を左右するからです。ちなみに、清掃で使う洗剤は「ホタテ」を主成分とした環境にやさしい物を使用しています。また、年々のお客様の増加に伴い、声をかけられる機会も増えてまいりました。その際、お年寄りやお子様には特に、分かりやすい表現でご案内するように努めております。

また、館内の思わぬ所に咲く花を見つける楽しみもあります。ツツジの中には水仙、看板の下にはオキザリスなど可愛い花があります。芝生の中に咲くネジバナもあります。小さい時はオオバコかと思っていましたが、12cmくらいに伸びてピンクの小さい花を順番に咲かせます。皆さんも探してみてください。これからも、お客様より「いつ来ても綺麗ですね!」と、言っていただけるよう、元気ががんばってまいりたいと思います。

INFORMATION

都合により、変更させていただく場合がございます。詳しくはトヨタ産業技術記念館までお問い合わせください。

週末 Workshop ワークショップ

次世代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとなる各種プログラムを用意しています。ぜひご参加ください。

他、多数プログラムを開催

受付期間 11月開催分 10/1(月)~10/11(木) 12月開催分 11/1(木)~11/13(火)
参加申し込みはホームページから トヨタ産業技術記念館 検索

参加費 500円(入場料別途必要) お問い合わせ 052-551-6003

参加希望者が定員を上回る場合、抽選となります。詳細はホームページをご覧ください。



11/4日 音のふしぎ! パンフルートをつくろう

12/1土 かたつむり ライトレーサー

12/2日 君の歌声で光る☆ サウンドセンサーツリー

12/16日 クリスマスの タペストリーをつくろう

ミュージアム ショップ

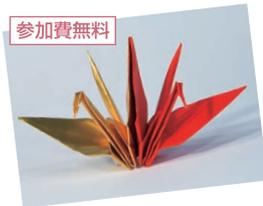
オリジナル前掛け 好評発売中 5,220円(税込)



縦70cm、横50cmの「リバーシブル前掛け」です。紺地に白でトヨタ初の量産乗用車「トヨタAA型」と、よこ糸の自動交換機能などを備えた豊田佐吉翁の世界的発明品「G型自動織機」をあしらっています。生地も紐も綿100%です。

図書室 体験教室 連鶴をおろう! 参加費無料

- 11/24(土) 1日2回(13:00~14:00、15:00~16:00)
- 20名/回(各回30分前より受付開始)
- 対象は小学生以上、大人の参加も歓迎
- 江戸時代から続く伝統的な折り方を習って、1枚の和紙で連なった鶴を完成させましょう!



RESTAURANT Brick Age

レトロでシックな赤煉瓦の空間で、シェフが腕を振るったメニューをお楽しみいただけます。



薬膳石鍋 スープカレー ランチ 1,500円(税込)



名古屋名物 大人気です!

3種類からお選びいただけます。

「みそかつランチ」※サラダ・ライス付き 1,300円(税込)

【営業時間】11:00~17:00(16:30ラストオーダー) 【TEL】052-551-6243
※ホームページには現在のメニュー情報や団体様用お弁当情報など、詳しく記載されております。
※17:00以降は貸切パーティも可能です。ご予算や内容など、ぜひご相談ください。



無停止昇降式 豊田自動織機(G型)



トヨタスタンダードセダン AA型乗用車

ご案内

- 開館時間 / 9:30~17:00(入場受付は16:30まで)
- 休館日 / 月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
- 入場料 / 大人500円・中高生300円・小学生200円
- ※ 団体割引あり
- ※ 学校行事での入場は半額(小学生・引率の先生は無料)
- ※ 65歳以上の方は無料
- ※ 障害者手帳をお持ちのご本人とその付添の方1名は無料

交通

- 名鉄 / 名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分
- なごや観光ルートバス「メーグル」 / 名古屋駅バスターミナル11番のりば「トヨタ産業技術記念館」(敷地内)下車すぐ
- 「名古屋駅」からタクシー利用で5分
- 無料駐車場(乗用車220台、大型バス10台)



トヨタ産業技術記念館
〒451-0051 名古屋市西区則武新町4丁目1番35号
TEL:052-551-6115 FAX:052-551-6199



Webサイトはこちら!
<http://www.tcm.it/>

